

## 2016（平成 28）年度自己点検・評価報告書の公表にあたって

全学自己点検・評価委員会委員長

学 長 馬場 善久

『2016（平成 28）年度自己点検・評価報告書』を公表するにあたり、自己点検・評価活動の概要について一言ご紹介申し上げます。

今年度は、以下 3 点の評価項目を掲げて、点検・評価活動に取り組みました。

### （1）「3つの方針（ポリシー）」の見直し

2017 年 4 月 1 日から「3つの方針」すなわちディプロマ、カリキュラム、アドミSSIONの3つのポリシーを策定し、公表することが法令で定められました。

ポリシーの見直しにあたり、教職員の関係者を対象とした研修会を行いました。1回目は、5月24日に文部科学省の河本達毅氏を招いて「3つのポリシーで何を実現するか」をテーマに、2回目は6月21日に大阪大学の川嶋太津夫氏を招いて「3ポリシー策定に向けて」をテーマに行いました。2回の研修会で得た知見を参考に、学部・研究科及び学位プログラムごとに、従来のポリシーを見直し、一貫性・整合性のあるポリシーの策定に取り組みました。

### （2）「学習成果の可視化」に向けた取り組み

3年目の継続した取り組みとして、専門科目における「学習成果の可視化」について、点検・評価を行いました。各学部等において、専門科目における学習成果（ラーニング・アウトカムズ）を特定し、それぞれの特色を生かした評価手法が取り入れられ、着実に「学習成果の可視化」が進んでいます。

### （3）認証評価結果に関する事項

本学は2014（平成 26）年度に、大学基準協会の認証評価を受け、翌年3月に評価結果を受領しました。評価結果で指摘された努力課題等を抽出し、毎年、評価項目として設定しています。これらの項目を点検・評価した結果、改善に向けた方策を検討している事項や、すでに課題を改善している事項もあり、協会からの指摘に対して積極的に取り組んでいる状況が明らかとなりました。

2018 年から始まる第 3 期認証評価における大学評価の基本方針は、内部質保証が有効に機能していることが軸になると明示されました。これをうけて、今回大学全体の新カリキュラム・ポリシーに、「創価大学は、全学自己点検・評価委員会を通じて共通科目・専門科目におけるコースナンバーや科目配置の妥当性と、直接・間接評価手法を用いて測定したラーニング・アウトカムズ（学習成果）の達成状況を点検・評価し、それをプログラム・レベルや授業レベルにおける教育改善や、カリキュラムの見直し等につなげることで内部質保証が機能するよう取り組んでいます」とうたっています。

教育・研究活動の一層の向上を目指して、創価大学における内部質保証システムの充実を今後も目指してまいります。

本報告書をご高覧頂き、本学の活動に対して皆様の忌憚のないご意見を伺うことができれば幸いです。

2017 年 3 月